

真 子

MA

YUMI

January 1
2018

PUBLIC INFORMATION PAPER OF UMEGAOKA

No, 82

医療法人主愛会 日立梅ヶ丘病院

新春のお慶びを申し上げます。

院長 岡田正樹

あらためまして、新年あけましておめでとうございます。皆様のおかげで今年も無事に新しい年を迎える事が出来ました。

昨年秋の衆院選が終わり、数カ月が経とうとしております。今回の選挙では医療保障の公約を掲げる政党が少ない中、自民党の勝利でかろうじて医療保障の筋道が見えるようになりました。その中でも大きな動きとして、消費税増税という新たな試練が待ち受けています。それらの試練の波に翻弄されつつも、基本に忠実に医療というものにこだわり続けることが私たちの使命だと思っております。

日立市の精神科医療の先端を行くという私の志は、皆さんの協力があればこそ実現するものと信じております。まずは、目の前の課題に一つひとつ着実に取り組んでいきましょう。どうか皆さん、今年もよろしく申し上げます。新しい年が更に良い年になるよう祈念致しまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。



「梅ヶ丘祭フラダンス発表」を通して

たから
得られた心の財

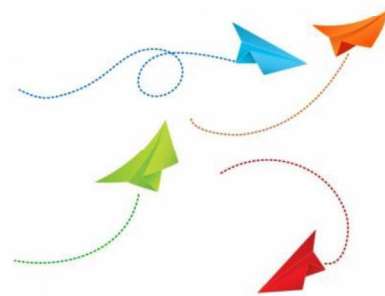
E棟 渡部三千子

長期に入院している患者さん達は、毎年行事を楽しみにしています。7月の「盆踊り大会」が終わり、10月25日「梅ヶ丘祭」を迎えることになりました。

そこで、E棟(精神科療養病棟)においては独自のグループ会を利用して、患者さんと梅ヶ丘祭で何を発表するかについて話し合いをしました。昨年同様に皆で歌うしかないだろうとの多くの意見でありましたが、女性職員から、「フラダンス」を皆で踊ってみたいとの提案がされました。…患者さんの歌と職員のフラダンスのコラボレーション？面白いかもね…決定！と言うことで出し物が決まりました。

早速、9月4日から練習をスタートしました。曲は、「365日の紙飛行機」に決定しました。食堂に全員集合し、発表日まで毎日15分間の練習を患者さんと共に楽しみながら取り組みました。その練習の

経過において、時には不平を言ったり、練習時間に遅れたりと…いろいろありましたが、予想していたよりは大きなトラブルもなく、患者さんは頑張っていました。フラダンスについては、昼休みや運動時間にも練習をしてきました。



発表時の服装は、上衣は白・下衣は黒か紺に統一し、バンダナを首に格好良く結びました。お互い笑顔で会場に向かっていった姿は、なぜか今でも脳裏に焼き付いています。 来年も……。

E棟の発表に、患者さんが全員参加することができたことは意義深いと考えます。実際裏では、会場に行く準備をしている時に、ひげを伸ばしたまま行こうとした男性患者さんに“ひげを剃ってから参加すること”と促がした所「それなら行かない！」と言い、暴言を吐き大暴れをし、また、ある女性患者さんは、妄想により「私は、行かない」と強く拒否されました。その後は、ベテラン看護師の話術により何事もなかったように、ひげを剃り・妄想も軽減し、二人は満面の笑みで会場に入ることが出来、全員の参加となりました。

「365日の紙飛行機」の歌とフラダンスのコラボレーションは、上手下手は別として全員良くてきたと思います。演出の紙飛行機を飛ばした効果も最高でした。

フラダンスを踊ったある看護師が、病棟に戻った時に天を仰ぎ「こんなに夢中になって、覚えようとした気持になったのは何年ぶりだろうか」と呟きました。彼女は、家に帰ってからもひたすら練習に励んでいたのでしょう。彼女らしいと思い、心の中で「ご苦労様でした」と言いました。

患者さんと共に折った10枚の紙飛行機。彼女の言葉。そして梅ヶ丘祭も終わり、食堂に全員集合した際に、主任からの「発表ご苦労様でした」の挨拶に、かつてなかった、患者さん達からの大拍手は、お互い満足感の現れの「証」。この感動の場面を忘れることはできない。今年も、梅ヶ丘祭の参加を通して、心の財たからが増えました。

皆さん、「365日の紙飛行機」歌ってみて下さい。歌詞が素晴らしいと思います。



バザーも大盛況♪



作業療法士さんの出し物は毎年楽しみです♡

～第6回日本精神科医学会学術大会に参加して～

医師 萩野谷真人

平成29年10月12～13日に広島で開催された日本精神科医学会学術大会に、昨年に引き続き参加して参りました。当院も所属する日本精神科病院協会の学術総会であり、精神科医療に関連する様々な企画や演題を発表しています。参加者の内訳は幅広く、医師や看護師のみならず精神科病院に勤務している全ての職種の方が参加されています。こういった全国学会の様子を見て、聴いて、さらに演題を登録して発表することはプロフェッショナルな職業人として成長できる良い機会であると思います。今年は事務部総務課の末永雅之さんに『火災報知機いたずら防止の工夫』と題して発表して頂きました。堅苦しい内容ではないですが、精神科病院に勤める職員であれば多くの方が、患者さんが火災報知機を誤作動させてしまう問題に直面したことがあるのではないのでしょうか。この問題に取り組んだ資料や文献は全くと言っていい程なく、今回の発表は極めて貴重な内容であったと思います。私は日精協誌（平成29年7月号）にも掲載された『オランザピンが有効であった音楽性幻聴の1例』について発表して参りました。

さて学会参加の楽しみといえば何と言ってもご当地の美味しいものを食べたり、ちょっとした観光をすることでありましょう。広島お好み焼きや牡蠣、アナゴ飯、広島産レモンを入れたお酒などを沢山いただきました。私は実のところ牡蠣はあまり好きではなかったのですが、本場の牡蠣は全く臭みがなく、焼く・蒸す・フライどれにしても本当に美味しかったです。宮島で鹿と戯れたり、足を延ばして呉の『大和ミュージアム』で胸を熱くしたりと存分に広島を楽しむことができました。来年の第7回日本精神科医学会学術大会は長野市にて開催予定です。皆さんの身近なところにも一般演題のネタは必ずありますので、今から発表に向けて準備をしてみませんか？



萩野谷先生



宮島・厳島神社と末永主任



広島のゆるキャラ『ブンカッキー』と総務のゆるキャラ『スエナッガー』
※『ブンカッキー』の名前の由来は、文化+牡蠣。頭に載っているのは県木であるもみじの葉。





アメリカに行ってきました

検査室 鈴木啓之

2008年の北京オリンピックから正式種目となった自転車競技のBMXレースというのをご存知でしょうか？

なぜか私は10数年前から茨城県BMX協会の副会長をしており、4年前からは全日本BMX競技連盟の理事もしています。

その関係で、2017年7月に行なわれたアメリカ、サウスカロライナ州ロックヒルBMX世界選手権大会に全日本チームのスタッフとして参加してきました。

選手団は、前年の全日本シリーズ戦大会を勝ち上がった7歳から40代の各年代男女約50名の選手とその保護者を合わせて100名以上の団体となり、成田からの飛行機は2ルートに分かれての渡米となりました。

この大会は、世界中から選手が集まり参加選手は3,000名以上、競技は5日間にわたり行われ、進行は英語のアナウンスでどんどん流れます。その進行に乗り遅れると出走でないの、前日の夜には誰がどの時間帯のどのレースを走るかなど詳細に調べあげ、毎朝5時にはホテルを出発して会場へ入り、全選手が力を出し切れるようサポートに徹してきました。

なお、会場の競技コースへは選手とチームスタッフしか入れず、親たちは観客席で待つだけなので、特に子供たちへは一人ひとり確実に、レースの順番通りに並ばせる必要があるため、サポートも必死でした。また現地は猛暑で湿度も高く、じっとしていても熱中症になってしまうような気候であったため、スタート前の待機中に十分な水分補給をさせ、さらにパンク等の機材トラブルにも対応しながら、毎日へロへロになるまで楽しんできました。



Japan 選手団



自分の走る順番等を探しています



待機中の各国選手たち



スタートゲート前の最終確認



レースは20~30秒間隔でドンドン進行します



広大なハイウェイ



夕食のTボーンステーキ

ハイスペックな日本人スタッフ
(情報満載のiPad、一眼レフ、
トランシーバー等)



あ、来年の世界大会はアゼルバイジャンです。(ってどこだ?)
2020年の東京オリンピックにも絡んでみたいと思っています。(^^)/

平成 29 年度 第 12 回院内学会報告

院内学会委員会 責任者 岡田有生



平成 29 年度院内学会は、平成 18 年度に第 1 回を開催してから早いもので第 12 回となりました。全部署から研究内容を募集させて頂き、10 演題（事務部 2 演題、看護部 4 演題、地域連携部 3 演題、介護支援事業部 1 演題）について発表して頂きました。（別紙のとおり）

第 12 回院内学会のスローガンは、第 11 回院内学会の「学びから深めるチーム医療」を受け、「**今こそ学ぶ^{とき}瞬～チーム力を高めるために～**」をかかげ、96 名の職員の参加を頂くことができました。研究発表や質疑応答および講評を通して、看護や業務実践の方向性について下記のとおり貴重な学びと課題を明確にすることができました。

- ①患者入院時の事務続きの簡略化を考えていく。
- ②関係部署や関係職種が連携し、職員間のコミュニケーションを良好にすることで患者や家族の安心感や満足度の向上に繋がる。
- ③閉鎖病棟への「危険物になるものを如何に持ち込みが予防できるか」について、患者のプライバシーを尊重しての「対応マニュアルの作成」を検討する。
- ④医師・看護師及び様々な職種の専門職と積極的に情報交換を行うチーム医療が重要である。
- ⑤看護師は、薬物に関する知識を深め患者の状況に応じた適切な臨床判断ができる様に日々研鑽することが必要である。
- ⑥当院で適時適性検査において用いている HDS-R、MMSE、SDSA の 3 つの検査のテストバッテリーは、患者が安全に車の運転をするために必要な能力を多面的に評価しており有効である。
- ⑦入院患者の入院環境を考慮して、肥満に対する栄養管理をしていく必要性がある。
- ⑧入院患者の自己管理能力を向上させる為には、先入観を持つことなく一人ひとりの患者の現状を受け止め、患者の出来る事に着眼し心に寄り添った日々の援助を行う事で信頼関係が構築し、行動を自立へと導く事ができる。
- ⑨退院に向けての家族への支援にあたり、家族は患者の良き理解者であるだけでなく、家族自身が支援を必要としている存在としてとらえ、苦悩や負担感を理解しながら家族と共に考える過程を大切にすることが重要である。
- ⑩退院支援委員会は、今後、患者本人と地域援助事業者を加える等、退院後の患者の生活について具体的に話し合う場として活用する事も検討して行く。
- ⑪退院後の日常生活自立への支援は、係わりの過程で築いた信頼感を基盤にして、目標に向かって患者と共に取り組み、家族と連携をすることで支援内容の質向上を図る事ができる。
- ⑫講評を通して、臨床の場における研究の進め方（調査内容の構成を含む）や論文の書き方、統計の分析と処理方法について具体的に理解することができた。今後の研究の展開や研究の纏めに反映させて行く。

以上の学びから、多職種がそれぞれの専門性を活かしチーム力を発揮する事の意義を考える良き機会となりました。他部署が現在どのような課題について取り組んでいるのかを共通理解することで、



自部署としての役割を考え職員間の連携の重要性について再認識することが出来たと思われます。医療人としてより良い医療と看護サービスを多くの患者さんに提供する為には、職員全員が常に学ぶ姿勢を持ち続ける必要があります。また、多部署・多職種のチーム力を高め、日立梅ヶ丘病院の質的向上を目指して行きましょう。



第12回院内学会プログラム

- 〔演題1〕 患者家族の満足度向上に向けた入院手続きとは
- 〔演題2〕 閉鎖病棟への危険物持ち込み予防対策
- 〔演題3〕 不穏時頓服薬与薬の適切な看護判断
- 〔演題4〕 認知症高齢者への口腔内ケアがもたらすもの
- 〔演題5〕 適時適性検査における SDSA の合否と認知機能の関連
- 〔演題6〕 精神疾患入院患者への肥満に関する栄養管理
- 〔演題7〕 精神疾患患者の自己管理能力向上への援助
- 〔演題8〕 退院に向けての家族への支援
- 〔演題9〕 退院支援に結びつく「退院支援委員会」のあり方
- 〔演題10〕 統合失調症患者退院後の日常生活自立への支援



作業療法ボランティア紹介⑤

ドッグセラピー

今回は年2回ボランティアに来て下さっている、ワンだぁフレンドさんのご紹介です。わんちゃんとの触れ合いだけでなく、一芸の披露・玉入れ等のミニゲームやワンちゃんたちの小さい頃の写真を見てどの子の写真が当てるクイズなど、内容は盛り沢山です！ワンちゃん達の可愛さに参加した患者さんはニコニコ♡いつも以上に素敵な笑顔が見られます。本当にボランティアさんやワンちゃん達には大感謝です！また来て下さるのを心からお待ちしております♪



ワンだぁフレンドの皆様
有難うございます。



「脳いきいきデイケアがスタートしました」

<http://www.umegaoka.or.jp/original39.html>



デイケアからの眺望

脳いきいきデイケアは、軽度認知障害（MCI）や早期の認知症と診断された患者さんを対象に、認知症の進行を防ぐ治療の一環としてのプログラム活動を10月17日から毎週火曜日に実施しています。現在10名の方が通所されています。（H29年12月14日現在）実施場所は太平洋が一望できる5階ラウンジで行っており、通所者の方々から「頭は使うけど眺めの良い場所でリフレッシュできる」との声を頂いております。

プログラムは、「脳トレ」「シナプソロジー」「筋トレ」「脳いきいき☆料理」「脳いきいき体操」「自分史作り」「回想法」「芸術療法」「ノルディックウォーキング」等の多岐にわたる活動を行っています。その根拠は、海外の研究の結果によると、「認知症は多因子疾患であり、治療や予防する為には多方面からのアプローチが有効である。具体的には、ウォーキングや筋肉トレーニング等の有酸素運動に加えて、食生活、認知トレーニング、健康管理等の多方面からのアプローチを行っていくことが重要」との結果が出ているからです。

まだスタートしたばかりで、最初は皆さん緊張した面持ちでありましたが、回数を重ねるごとに参加者同士の会話も生まれ、笑顔も見られるようになりました。安心した雰囲気の中で、『楽しく脳を刺激して混乱していく』ことをモットーに活動をしています。

参加されている方やご家族様からは「頭を使って少し疲れるけど、それが認知症予防に繋がるのですね」、「慣れてきて楽しくなってきました。今後も認知症予防のために頑張っていきたい」、「一人で家にいると考え事をしてしまうので、皆で活動ができて嬉しい」、「病院で行っているので安心感があり、近くにこのようなサービスがあって有り難い」等の感想が寄せられています。

最近、地域のケアマネさんやクリニックの先生方からのご紹介で、問い合わせが一気に増えて来た脳いきいきデイケア。ご興味がある方は、是非お気軽に問い合わせください。

脳いきいきデイケア担当 富田・大久保

 医療法人 主 愛 会 日立梅ヶ丘病院

所在地 : 〒316-0012
茨城県日立市大久保町 2409-3
TEL : 0294-34-2103
FAX : 0294-33-1800
URL : <http://umegaoka.or.jp>
E-mail : info@umegaoka.or.jp



広報紙部会
富田 加代子
瀬谷 美喜子
大場 史織
花田 龍馬
鈴木 明日美
鈴木 啓之

編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年最初の表紙は、当院のラウンジから撮影した日の出の写真です。あいにく水平線に雲がかかっていましたが、キレイな日の出は病室からも見ることができます。

鈴木啓之